

平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

桜町遺跡(産田地区)

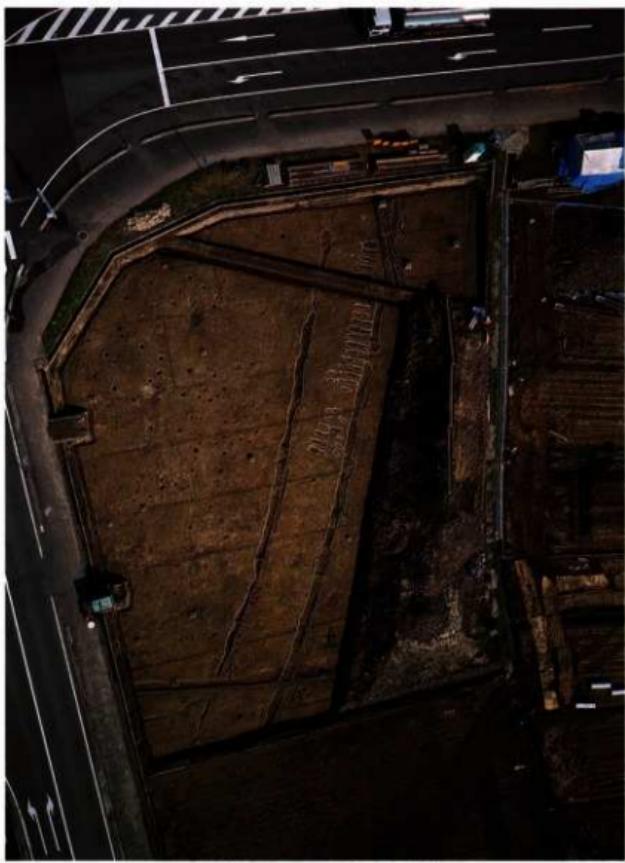
五社遺跡

谷内窯跡群

埴生南遺跡

1994・3

小矢部市教育委員会



桜町遺跡(産田地区)の推定古代北陸道

平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

桜町遺跡(原田地区)

五社遺跡

谷内窯跡群

埴生南遺跡

1994・3

小矢部市教育委員会

はじめに

富山県小矢部市は県西部に位置し、源平合戦で知られる俱利伽羅峠を擁する砺波山丘陵で石川県との境を画しています。旧越中国砺波郡の西北部にあたり、古来より、越中に入る陸路の要衝としての位置を占めております。その重要性は現在にあってもいささかの変化もなく、JR北陸線、国道8号、北陸自動車道、東海北陸自動車道など主要な交通路のすべてが、当市域を通過していることからもわかります。また現在、能越自動車道の建設、北陸新幹線加越トンネルの掘削工事がすすめられているところでもあります。

「交通の要地」の為せるところか、遺跡の数も多く、年間の発掘調査件数は県内屈指のものとなっています。発掘調査はすべて開発事業に先立つものであり、事業を実施される方々には様々なご迷惑をおかけすることとなっておりますが、それにもかかわらず遺跡調査の必要性と重要性に対してご理解をいただき、多大なご協力を賜っております。調査を担当する市教育委員会では、調査対象となった遺跡から可能なかぎり多くの情報を引き出しこのご好意に報いたいと考えております。本年度も30件近い調査を実施しておりますが、幸いにも桜町遺跡では古代北陸道と推定される遺構が発見されマスコミにも大きくとりあげられました。古代の官道は言うならば当時の一級国道や高速道路であります。建設された時期から考えて、国守として越中国に赴任した万葉歌人大作家持も必ずや通ったに違いない重要な道路です。往時を彷彿とさせる発見となりました。これ以外にも埴生南遺跡では弥生時代中期の遺跡が出土し、今まで資料が乏しくよくわかっていなかった弥生時代の小矢部市を漸く垣間見ることができた貴重な発見です。

本書は本年度国庫補助事業として実施した調査成果の概要を速報するものです。これ以外にも貴重な資料が発掘されていますが、それらについては他日を期したいと思います。

1994年3月31日

小矢部市教育委員会

目 次

はじめに	
I 調査経過	1
II 桜町遺跡(産田地区)発掘調査概報	5
III 五社遺跡発掘調査概報	29
IV 谷内窯跡群発掘調査概報	35
V 塩生南遺跡発掘調査概報	43
報告書抄録	

例 言

- 1 本書は富山県小矢部市内で平成5年度に国庫補助事業として実施した、埋蔵文化財緊急調査事業の概要を報告するものである。
- 2 発掘調査は国庫補助50%、県費25%、市費25%の費用負担割合で実施した。
- 3 調査は伊藤隆三（小矢部市教育委員会社会教育課文化財係長）、塚田一成（同主事）藤城全代（同主事）が担当した。
- 4 現地調査は平成5年4月12日開始し、平成6年3月22日に終了した。
- 5 本書の編集は、塚田、藤城の協力を得て伊藤が行なった。
- 6 調査にあたって、木下 良（古代交通研究会会长）、金田章裕（京都大学文学部助教授）、坂井秀弥（文化庁記念物課文化財調査官）、田島明人（社団法人石川県文化財保存協会調査課長）、宮田進一（財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所調査第二係長）、池野正男（同調査第一係長）の各氏のほか多数の方々の教示を得た。記して謝意を表したい。
- 7 遺物は一括して小矢部市教育委員会が保管している。

I 調査経過

平成5年度に小矢都市内で実施した埋蔵文化財調査は、分布調査・立合調査・試掘調査・本調査を合わせて総数29件、調査対象面積は5,031,745m²であった。調査の原因は工場整備、土地区画整理、ゴルフ場造成、道路改良、店舗建設、宅地造成などである。これら調査のうち国庫補助事業として実施したのは12件、対象面積1,619,651m²である。このうち本書で取り扱うのは別表に示す11件、対象面積1,614,651m²である。その殆どは遺跡の所在確認のための試掘調査である。No.1・2・4・7・9・10・11では遺構・遺物がまったく検出されなかったり、ごく少量であったもの、平成6年度継続調査が予定されているものであるため、No.3・5・6・8について調査の概要を記すこととする。なお、桜町遺跡については試掘調査の後、原因者に調査費の負担をお願いし本調査を実施しているのでその調査結果の一部も合わせて紹介したい。

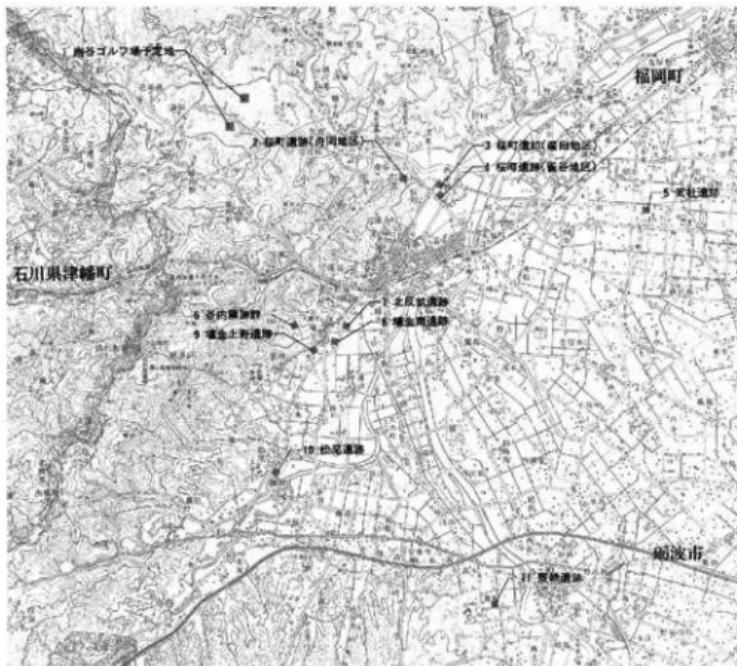


図1 平成5年度埋蔵文化財緊急発掘調査事業(国際補助)実施位置図(1/100,000)

平成5年度埋蔵文化財発掘調査一覧（国庫補助分）

	遺跡名	所在地	調査の原因	調査期間	調査対象面積	調査結果・取扱い
1	南谷ゴルフ場子 定 地	小矢部市 岩尾庵字赤蛇43-1他	ゴルフ場造成	H5.9.29	1,600,000m ²	遺構・遺物ともなし。
2	桜町遺跡 (舟岡地区)	小矢部市 桜町字舟岡238-3	宅地造成	H5.4.23 ～5.13	79m ²	中世陶器・縄文土器(気泡式)。
3	桜町遺跡 (彦田地区)	小矢部市 桜町字彦田1650-1他	ガソリン スタンド建設	H5.4.19 ～4.22	1,613m ²	本古報告。 原図者負担で本調査。
4	桜町遺跡 (雀谷地区)	小矢部市 桜町字雀谷1265-3	公民館建設	H5.8.26 ～9.3	1,857m ²	縄文土器(後期)・石器。
5	五社遺跡	小矢部市 五社354-1他	宅地造成	H5.12.2 ～12.24	645m ²	一部本調査。本書報告。
6	谷内廻跡群	小矢部市 堆生字谷内54-1他	店舗建設	H5.7.19 ～12.24	2,800m ²	本書報告。現状保存。
7	北反歎遺跡	小矢部市 堆生358	ガソリン スタンド建設	H6.1.18 ～3.22	1,426m ²	遺構・遺物ともなし。
8	堆生南遺跡	小矢部市 堆生289-2	宅地造成	H5.11.5 ～11.29	998m ²	一部本調査。本書報告。
9	堆生上野遺跡	小矢部市 堆生字上野4821-3他	畑地造成	H5.12.2 ～12.10	440m ²	縄文土器・石器多数出土。 H6年度調査繼續予定。
10	松尾遺跡	小矢部市 松尾5163他	工場用地造成	H5.11.9 ～11.19	5,268m ²	遺構・遺物ともなし。
11	蓑輪遺跡	小矢部市 蓑輪466	宅地造成	H5.4.12 ～4.16	868m ²	遺構・遺物ともなし。

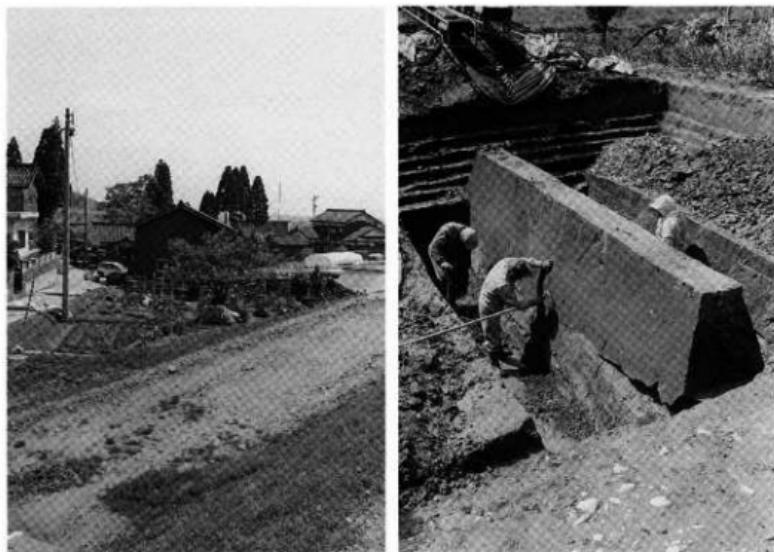


図2 桜町遺跡(舟岡地区)試掘調査状況



図3 桜町遺跡(雀谷地区)試掘調査状況



図4 塙生上野遺跡試掘調査状況



図5 松尾遺跡試掘調査状況

II 桜町遺跡(産田地区)発掘調査概要

所在地 小矢部市桜町字産田1650-1ほか

調査期間 平成5年4月16日～4月22日

調査対象面積 1,613m²

調査の原因 ガソリンスタンド建設

調査の概要

桜町遺跡(産田地区)は石動市街地の北方、小矢部川と子撫川の合流点付近、子撫川右岸の自然堤防上に位置する。今回の調査地点は国道8号小矢部バイパス建設に先立ち、昭和59年に実施した調査区に南接し、また、主要地方道小矢部伏木港線改良工事に伴い昭和58年に発掘調査を実施した調査区に東接する位置にあたる。現在の桜町(東)交差点の南東部である。調査の結果ほぼ全面で遺構・遺物が検出されたため、9月6日から原因者負担で本調査を開始し12月24日終了した。



図6 発掘調査位置図(1/15,000)

遺構

今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物2、柵1、溝4、土塁3、道路遺構1(図8)などである。

掘立柱建物SB-8434は、1984年に実施した国道8号小矢部バイパス建設に先立ち発掘調査を実施した際に一部を検出していたもので、今回その南半部を検出し、 2×3 間の建物であることが明かとなった。柱間は180cm~240cmである。SB-9301は 2×2 間の總柱建物である。柱間は180cm~200cmである。これ以外の建物は見られず、桜町遺跡の集落部分はここが南限と見られる。柵SA-9301はL字形を呈する。柱間は130cm~150cmである。SB-9301と主軸を合わせている。過去の調査を含め遺跡の存続幅は7世紀前半代から9世紀代と見られるが、建物などの細かな年代は今回の調査では明かにできなかった。溝SD-9304は検出した溝では最も古く、道路遺構の側溝に切られている。柵西端付近で土師器甕(図15)が一個体分出土している。SD-9303は道路側溝を切っており道路遺構より新しいが、出土遺物がなく所属する時期は明らかでない。SD-9305は正しく南北方位をとり復原条里の坪界と一致する。³⁾



SD-9306は最も新しい時期の遺構であるが時期は明らかではない。道路遺構SF-9301は、調査区のほぼ中央部を南西方向から北東方向へ延びる。南西方向から約3分の1程のところで西へ若干折れるものの、全体として直線的である(図10)。幅60cm~100cm程の両側溝を備えている。西側溝SD-9301から須恵器が2点(図14-23・24)出土した。溝心々間の距離は5.5m~6mである。溝の横断形は路面側に向かって傾斜が急で外に向かっては緩やかである。深さは深浅があるが、土層断面観察地点で約20cmである。埋土の状況から溝は再掘削されていると思われる(図9下段)。路面にあたる両側溝に挟まれた部分には特に硬化したところ

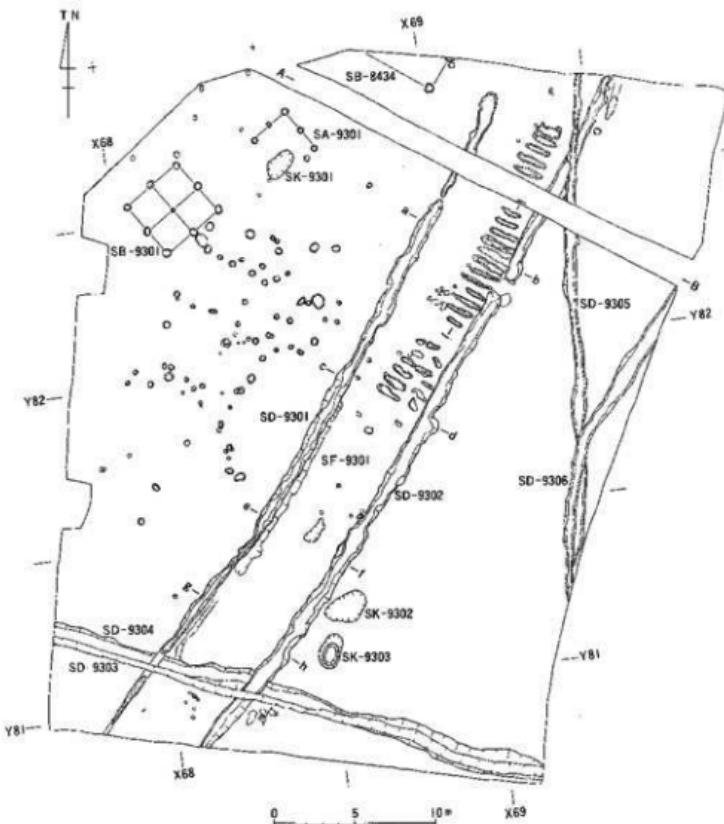


図8 遺構実測図(1/350)

は見られない。また、北半部には東側に偏って、所謂、波板状凹凸面が見られる。凹凸は長さ100cm～230cm(平均約176cm)、幅25cm～60cm(平均約38cm)の溝状で、それぞれの間隔は20cm～40cm(平均約32cm)である。埋土は側溝のそれと殆ど差がない、また底面は硬化していない。周辺の地形環境、旧地割の検討、過去の発掘調査の成果などから、この道路遺構は古代北陸道と推定される。また後述のようにその築造年代は7世紀後半代と考えられる。

その他、小規模なピット群、土塁3基が検出されたが遺物は出土しなかった。

遺物

遺物はSD-9304及び道路遺構西側溝SD-9301から若干出土した以外、殆どが遺物包層、遺構検出面からのものである。出土した遺物には、須恵器、土師器、中世陶磁器、中世土師器、銅鏡、近世陶磁器などがある。遺物の総量は多くない。

須恵器(図14)

須恵器には、杯蓋、有台杯、無台杯、榠、長頸瓶、高杯、甕などがある。杯蓋は内面かえしを有するものが主体を占め、それ以外のものは僅少であり細片である。1・2は乳頭状のつまみを有するものである。全形を知り得ないが小形のもので、出土した須恵器の中では最も古い。3・5～8・10・11は内面に矮小なかえしを有するもので、大小2法量がある。3が7世紀第3四半期に属する西蓮沼窯の製品に類似するほかは、7世紀第4四半期に属する

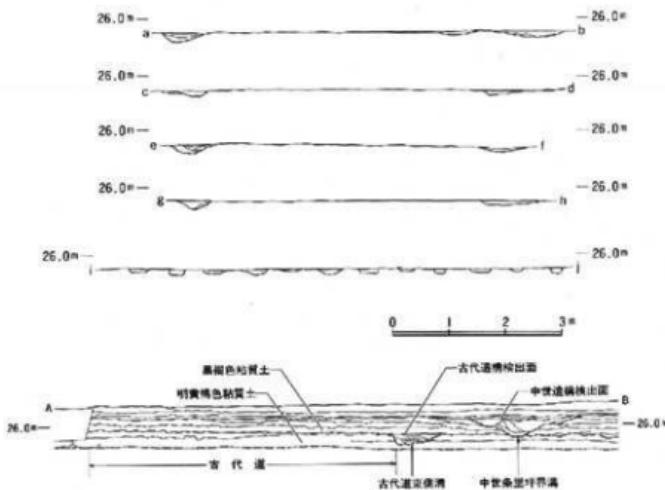


図9 道路遺構SF-9301断面図及び土層断面図(1/100)

4)
山王奥堤窯・蓮沼新堤窯の製品と類似するものが多い。12~17は細片であるが、8世紀はじめ頃から9世紀代のものと考えられる。杯類は有台のもの、無台のもの、楕形のものがある。有台杯18・19は外側の踏張るやや高い高台を有する。20を含め7世紀後半代のものと思われる。21・22は8世紀以降のものである。無台杯27はやや楕形の体部で、砂粒をやや多く含む胎土から蓮沼付近で生産された製品の可能性が考えられる。28~31は砂粒をあまり含まず、

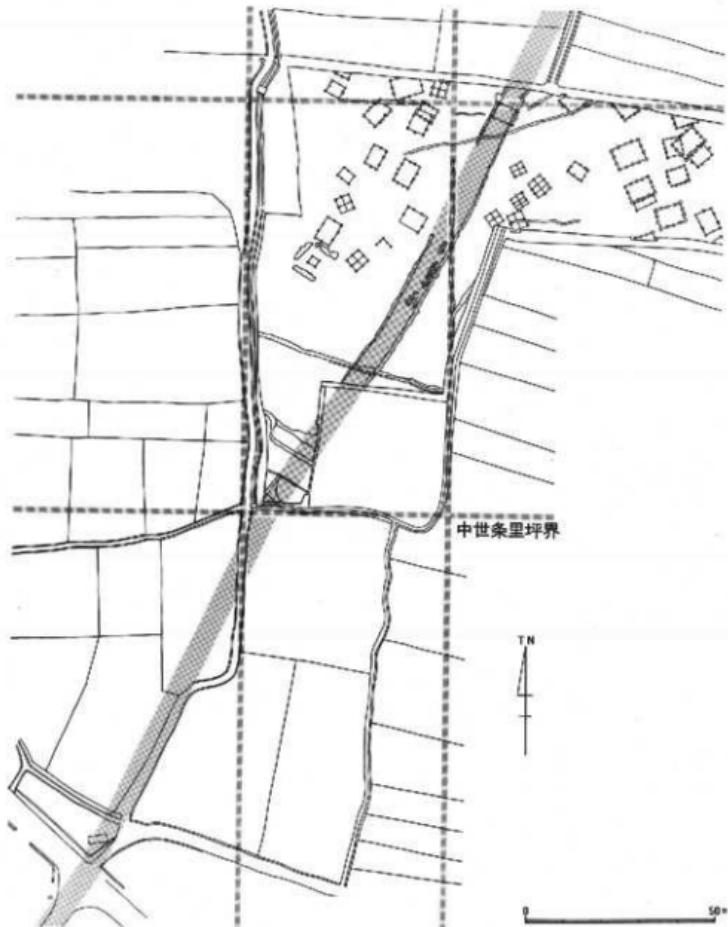


図10 桜町遺跡の推定古代北陸道 (1/1,500)

27とは産地が別であろう。23~26は少形の椀である。器壁はやや厚く、浅いものが多い。この内、23・24は道路造構西側溝の埋土内から出土した。現在のところ類例のない器形で産地・所属時期などは明らかでないが、周辺の状況から7世紀後半に属するものと考えられる。33は少形の高杯で7世紀後葉から8世紀前葉にかけてのもの。34は無蓋高杯の杯部である。36は甕の口縁部で外面には3条の横波状文が2段に、内面には4条の波状文が描かれている。海綿骨針片を含んでいる。

土師器(図15)

土師器の出土量は極めて少ないが、SD-9304から形状を知り得る甕が一箇体出土した。



図11 桜町遺跡周辺の空中写真(CB-63-8X, C6-12)

須恵器が伴っていないため細かな所属時期は明らかではないが、切り合い関係から道路遺構よりも古い時期に属する。

中世陶磁器(図16)

少量ながら、中世陶磁器や中世土師器が調査区全体から出土している。中世陶磁器には

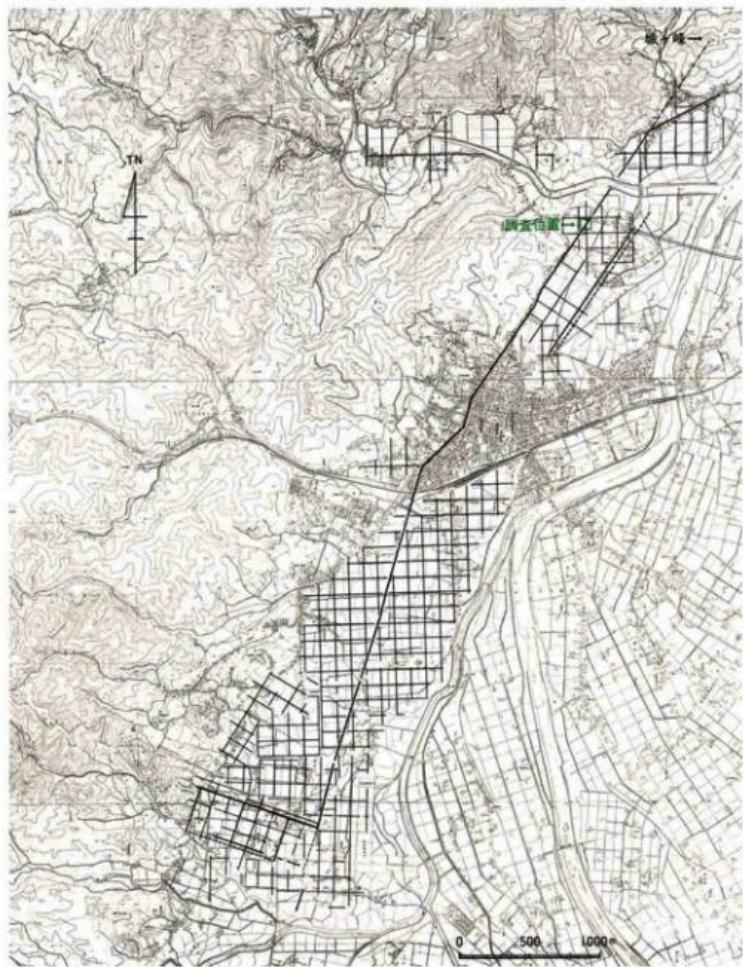


図12 推定古代北陸道の小矢都市内ルート (1/40,000)

珠洲焼、越前焼、青磁碗がある。珠洲焼には13世紀～15世紀の年代幅がある。「永樂通宝」が1点出土している。

推定古代北陸道と築造年代

5)

小矢部市内の推定古代北陸道については既に述べたことがある。ここではあらためて詳細を記さないが、その概要は次のとおりである。1)古代北陸道は地勢の不安定な小矢部川



図13 推定古代北陸道通過地(小矢部市埴生地区ほか)の旧地割(1/20,000)

右岸の庄川扇状地を避け、小矢部川左岸地帯を通過したと考えられる。2) 加越国境を越えてからは直線的なルートをとり小矢部川左岸段丘の縁辺部付近を通り、現石動市街地に達して後は丘陵添いに進み、桜町遺跡を通過し子撫川を渡り国府方向へ向かう。3) 昭和59年に国道8号小矢部バイパス建設に伴う発掘調査で検出された幅約6mの平行する溝は推定されるルートと一致するため、これが古代北陸道の遺構であると考えられる。などである。しかし、昭和59年の調査ではこの遺構の築造年代は明らかにできておらず、桜町遺跡の集落の存続幅である7世紀前半代から9世紀代といった広い幅のなかでとらえるしか方法がなかった。

今回の調査で検出した律令期の遺構の概要は先に記したとおりであるが、建物跡は調査区北端の2棟のみで、あとは道路遺構と溝などである。今回の調査地点は集落部分を殆ど含んでいないことになる。遺物の分布状況は図17に示すとおりであるが、集落から離れた

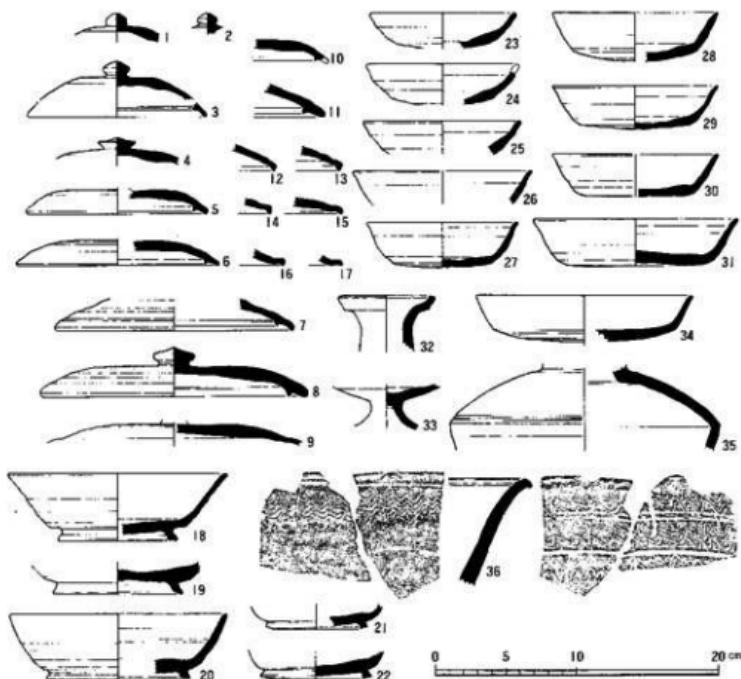


図14 須恵器実測図(1/4)

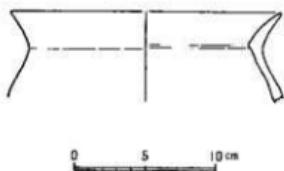


図15 滋SD-9304出土土器実測図(1/4)

調査区両側で比較的多く出土している。また、道路検出面及び道路遺構に直接絡む遺物の殆どが7世紀後半代のものである。8世紀代以降の遺物は細片で出土量も極めて少なく、しかも遺物包含層からの出土が殆どである。このことから、7世紀代後半代の遺物は道路それ自体に関わるものである可能性が高いものと考えられる。

近年各地で古代官道の調査が行なわれており、その築造時期が明らかとなっている例も見られる。⁶⁾山陽道推定初期野原駅家(兵庫県落地遺跡)の7世紀後半から8世紀前半、⁷⁾東山道武藏路(埼玉県東の上遺跡)⁸⁾の7世紀第3四半期、西海道肥前路(佐賀県吉野ヶ里遺跡)の8世紀代などであるが、これらの例から古代官道が少なくとも7世紀後半代には整備が開始されていたと見ることができる。今回の調査で、北陸道も他の官道と軌をはず同じくして整備されたと見ることが可能となった。さらに細かな年代については調査の蓄積が必要である。

道路遺構は過去の調査を含め延長約90mが発掘されたことになる。この結果、道路の線形は若干折れ曲った部分があるものの全体として直線的であることが明らかとなった。地形図上で道路遺構を北東に延伸させると、その延長線は子撫川をはさんで対岸の田川地区に所在する城ヶ峰と呼称される山の頂上に至ることが分かる(図12)。山の頂が古代官道の測設の目標にされたと考えられる例は、南海道や東山道などでも認められ、北陸道の測設にあたっても城ヶ峰頂部が目標にされたと考えることもできる。

桜町条里と「宮崎保」

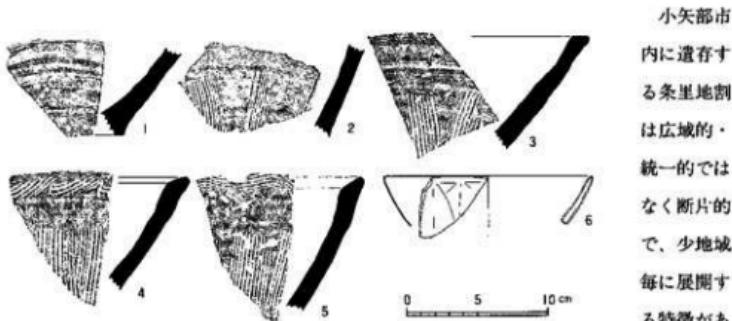


図16 中世陶磁器実測図(1/4)

る。また、埴生条里遺跡に所在する北反戦遺跡の発掘調査で、その施工が12世紀後半の石清水八幡宮領地生保の耕地整備に伴うものであることが明らかとなったこと、他の条里遺跡の調査でも条里に即した古代の遺構が検出された例がなく、中世の遺構が条里に即している場合が多いことなどから、市域の条里地割は中世の莊園開発との関わりで考えるのが妥当と考えられる。¹³⁾ 桜町地域でも狭い範囲ながら条里地割が確認されているが、今回の調査地点では南北方位の条里坪界線が想定されており、これに合致する溝SD-9305が、律令期の遺構検出面から28~29cm上方で検出された(図9)。その時期は今回の調査では明らかにできなかつたが、調査地点の東方3坪目に所在する桜町遺跡板東地区で検出された13世紀前半代の遺構と方位などが一致するため、これと同じ時期に施工されたものである可能性が高い。埴生条里より若干遅れて施工されることになるが、やはり同様に中世条里に関わるものと考えてよいだろう。「吾妻鏡」延応元年(1239)条に九条道家の寄進による東福寺領「宮鳴保」の名が見え、桜町遺跡周辺がその比定地となっている。東福寺の創建は嘉祐二年¹⁴⁾(1236)で、創建後程なく寄進されたことになる。発掘調査で得られた年代観と矛盾しない。

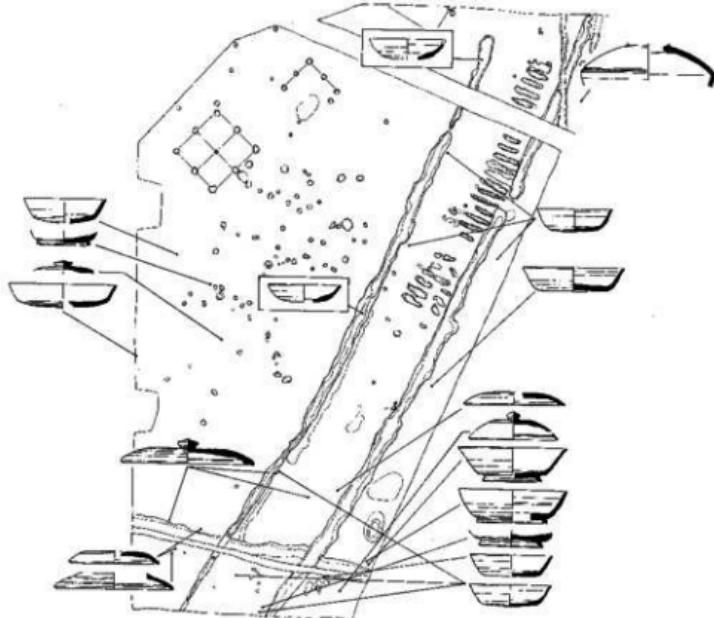


図17 須恵器の出土位置図(1/400)

注

- 1) 小矢部市教育委員会『桜町遺跡(彦田地区)発掘調査概報』(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第17冊)
1985
- 2) 小矢部市教育委員会『桜町遺跡(彦田地区)』(小矢部市埋蔵文化財発掘調査報告書第11冊)1983
- 3) 金田章裕「条里制」「小矢部市史」上巻、1971
- 4) 西井路儀・伊藤隆三ほか「資料編・富山」『北陸の古代寺院—その源流と古瓦ー』北陸古瓦研究会・桂書房1987
西井龍儀・伊藤隆三ほか「越中」「シンボジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」資料編、石川考古学研究会・北陸古代土器研究会1988
- 5) 小矢部市教育委員会『北反戦遺跡—一条里遺構の発掘調査概要ー』(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第25冊)1989
伊藤隆三「北反戦遺跡の発掘調査からみた小矢部市域の条里地割」「条里制研究」6、条里制研究会1990
伊藤隆三「小矢部市で発掘された古代道」「古代交通研究」創刊号、古代交通研究会(設立準備会)1992
伊藤隆三「小矢部市内発掘の推定北陸道」「季刊 考古学」第46号、雄山閣出版1994
- 6) 萩 龍幸「落地遺跡発掘調査概報」「古代交通研究」創刊号、古代交通研究会(設立準備会)1992
萩 龍幸「兵庫県落地遺跡(初期野原駅家拠点地)」「季刊 考古学」第46号、雄山閣出版1994
- 7) 飯田光晴「東の上遺跡の道路状遺構—条里方法についてー」「第1回古代交通研究会—発表資料ー」古代交通研究会1992
飯田光晴「埼玉県東の上遺跡の道路遺構」「季刊 考古学」第46号、雄山閣出版1994
- 8) 七田忠昭「肥前神崎郡における駅路と周辺の官衙的建物群の調査」「条里制研究」第4分、条里制研究会1988
七田忠昭「肥前国府と駅家」「日本考古学協会1990年度大会研究発表要旨」日本考古学協会1990
七田忠昭「奈良・平安時代の官衙的建物群と駅路について」「吉野ヶ里」本文編、佐賀県教育委員会・吉川弘文館1994
- 9) 金田章裕「山田郡条里と山田郡田団」「讃岐国弘福寺領の調査」(弘福寺領讃岐国山田郡田団調査報告書)、弘福寺領讃岐国山田郡田団調査委員会・高松市教育委員会1992
- 10) 木本雅廉「宝龜2年以前の東山道武藏路について」「古代交通研究」創刊号、古代交通研究会(設立準備会)1992
- 11) このため1993年以降は条里地帯を地域毎に分けて考え、その地域名を冠して呼称することとしている(例えば地生条里遺跡、蟹谷条里遺跡など)。
富山县埋蔵文化財センター「富山县埋蔵文化財包蔵地図」1993
- 12) 前掲注5)
小矢部市教育委員会『北反戦遺跡—一条里遺構の発掘調査概要IIー』(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第30冊)1990

- 13) 金田章裕氏の提唱する「莊園の条里プラン」に基づくものである可能性が高い。
金田章裕「国団の条里プランと莊園の条里プラン」『日本史研究』332、日本史研究会1990
金田章裕「医王山麓の平野における中世の景観」『医王山文化調査報告書 医王は語る』富山県福光町・
医王山文化調査委員会1993ほか
- 14) 小矢都市教育委員会「桜町遺跡(小三昧前・坂東地区)」図版編(小矢都市埋蔵文化財調査報告書第14冊)
1986
- 15) 長島勝正ほか「中世のうごき」『小矢都市史』上巻、小矢都市史編集委員会・小矢都市1971

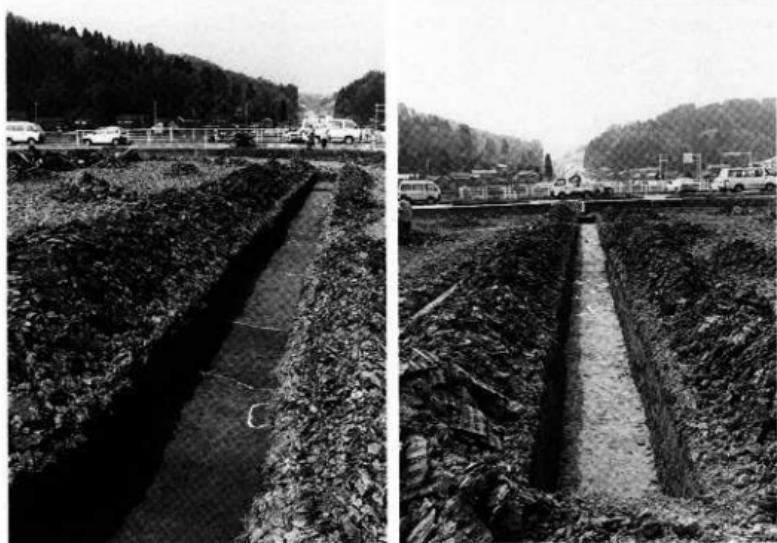


図18 試掘調査状況(東から)

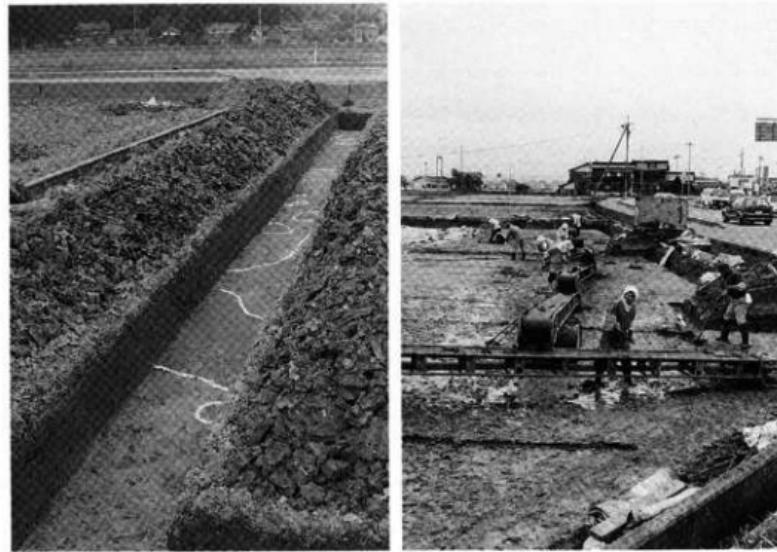


図18 試掘調査(東から)(左)・本調査(北から)(右)状況



図20 推定古代北陸道SF-9301(北東から)



図21 SF-9301(北東から)



図22 SF-9301(南西から)



図23 SF-9301(南西から)



図24 推定古代北陸道SF-8301(北東から)



図25 SF-8301検出状況(北東から)



図26 SF-9301(南西から)



図27 SF-9301検出状況(南西から)



図28 推定古代北陸道SF-9301と中世条里坪界溝SD-9305(北から)





図29 推定古代北陸道SF-9301の波板状凹面



図30 SF-9301の波板状凹面検出状況

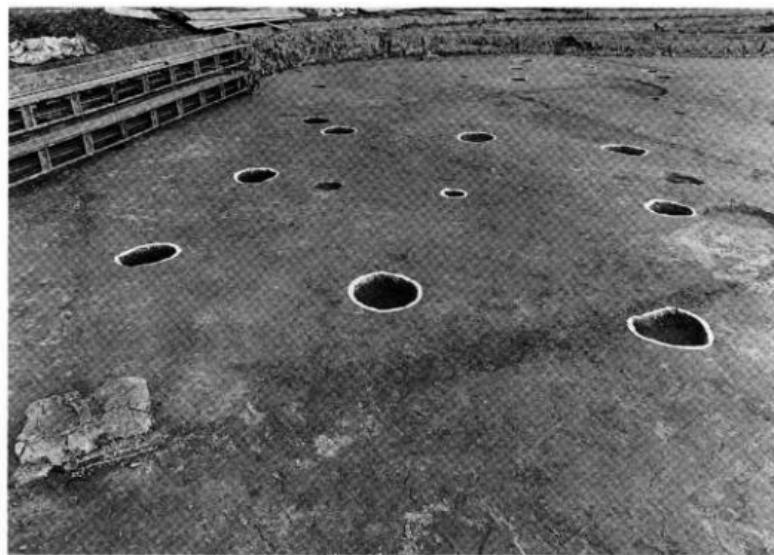


図31 捕立柱建物SB-9301(南西から)



図32 桁SA-9301(南から)

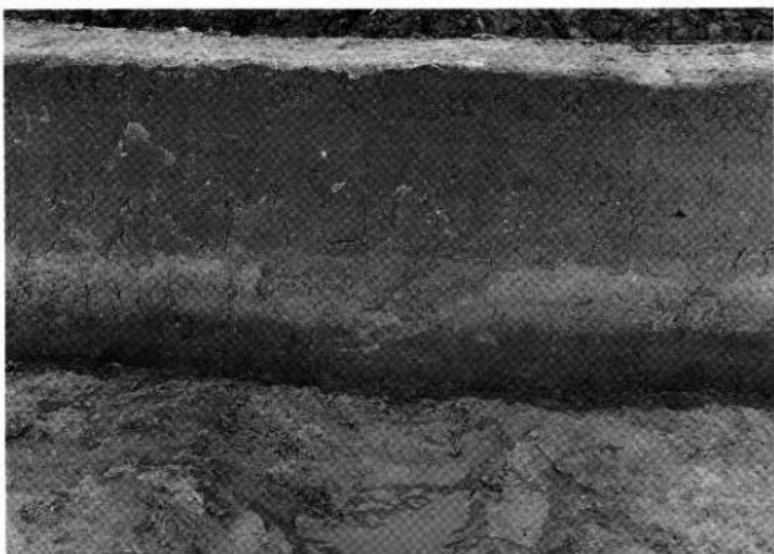


図33 推定古代北陸道東側溝SD-9302の土層

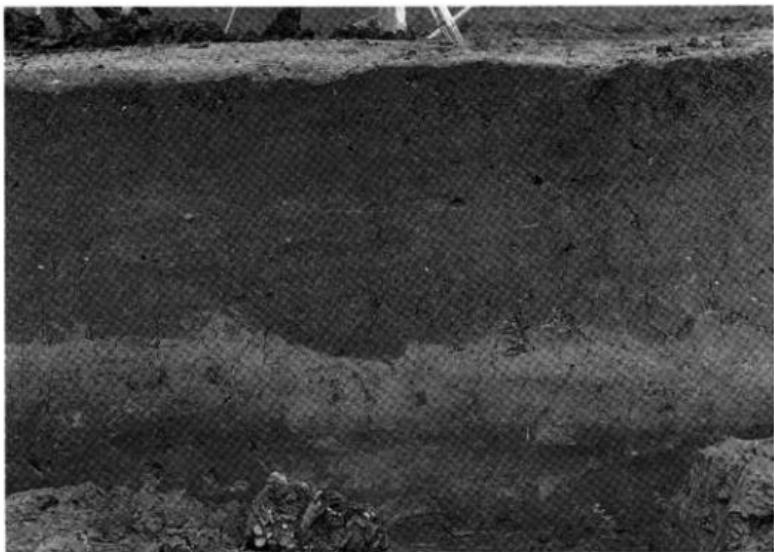


図34 中世条里坪界溝SD-9385の土層

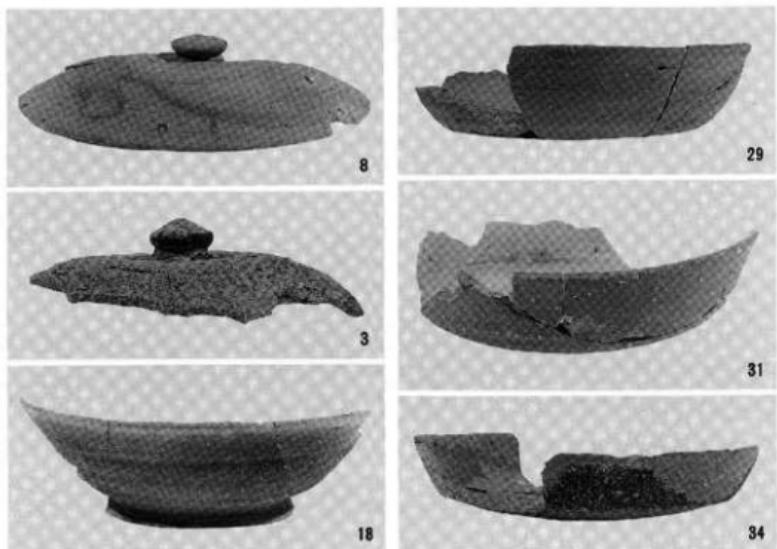


図35 須恵器(盃・有台杯・無台杯・高杯)

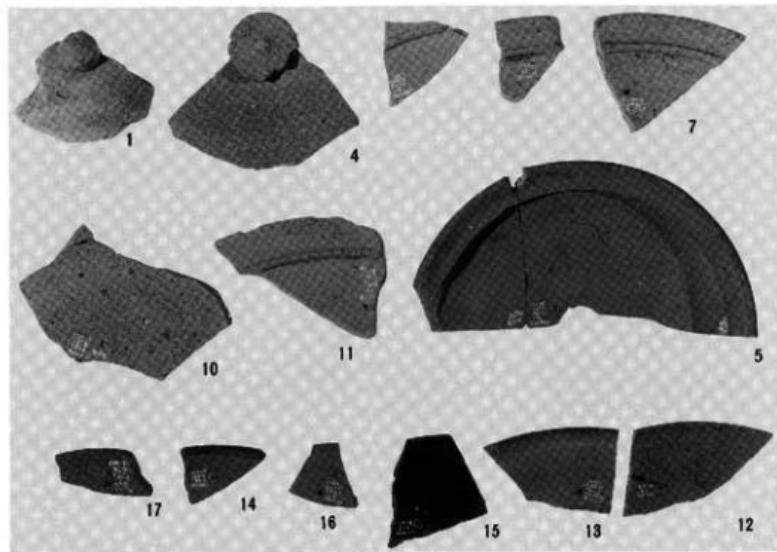


図36 須恵器(盃)

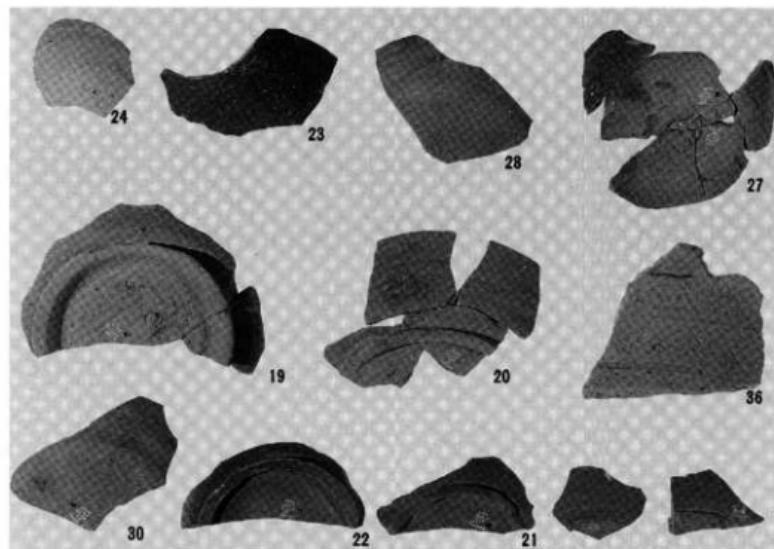


図37 猥憲器(有台杯・無台杯ほか)

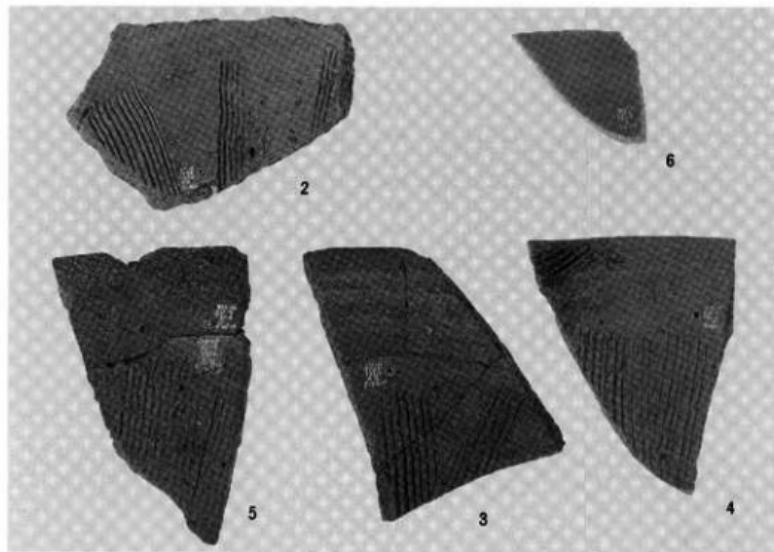


図38 中世陶磁器(珠州流すり鉢・青磁碗)

III 五社¹⁾遺跡発掘調査概要

所在地 小矢部市五社354-1ほか

調査期間 平成5年12月2日～12月24日

調査対象面積 645m²

調査の原因 住宅建設

調査の概要

五社遺跡は石動市街地の東方、小矢部川右岸の庄川扇状地端部付近に位置する。遺跡北西には木舟城址があり、また、一帯には近年までやや不明瞭ながら西に6度偏する条里地割が遺存していた(五社条里遺跡)。²⁾遺跡は平成2年度に小矢部市教育委員会が能越自動車道建設に先立ち実施した試掘調査で発見された。翌平成3年度からは富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所により本調査が開始され、現在も継続中である。遺跡の時期は古墳時代と平安時代および中世である。本報告は、能越自動車により移転することとなった個人住宅の移転先の発掘調査の概要である。調査位置は、埋蔵文化調査事務所が平成5年度に発掘調査を行なった調査区の北東に接している。



図38 発掘調査位置図(1/15,000)

造構

調査地点の層位は比較的安定しており、庄川扇状地に島状に分布する「mud」にあたる部分と考えられる。層位は、耕作土(第1層)、灰褐色粘質土(第2層)、明褐色粘質土(第3層)、灰褐色粘土層(第4層)、黒褐色粘土層(第5層)、明灰白色粗砂層(第6層)、粗砂層(第7層)、砂礫層(第8層)である。比較的厚い表土の堆積が認められる。第3層上面で東西方向の柱列SA-01を確認した。柱穴は3基で、何れも直径20cm程度の小規模なもので、柱間は約120cmである。時期は不明である。また、ほぼ同一のレベルで大規模地震の際発生する液状化現象によって生じた南北方向の砂脈を検出した。当地域では液状化を発生させたと考えられる大規模地震を、天正13(1586)年(白山地震)と安政5(1858)(飛越地震)の二度被っているが、検出された砂脈が何れの地震によるものかは明らかでない。第4層と第5層

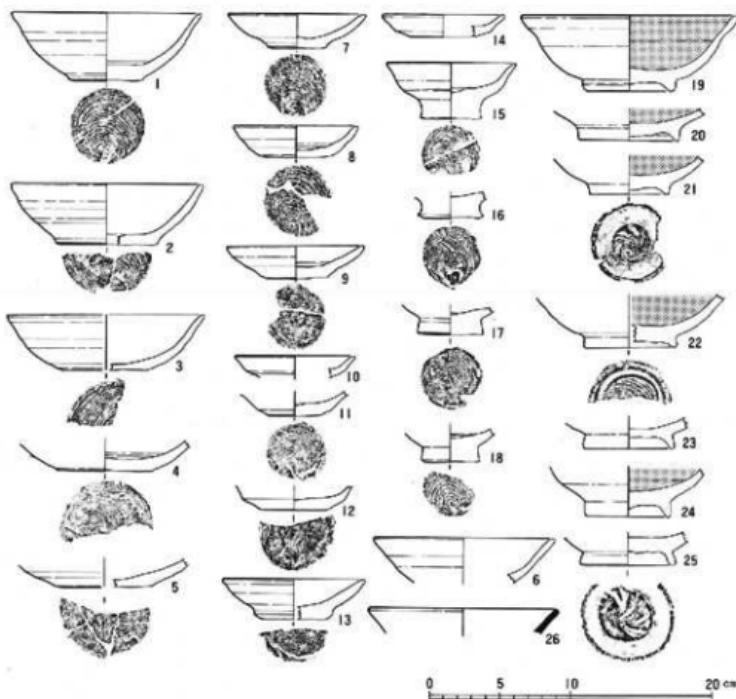


図40 土器・須恵器実測図 (1/4)

からは遺物が出土した。第4層では若干量であり、殆どは第5層からのものである。遺構は検出されていない。第6層以下は遺構、遺物ともに検出されていない。

遺物(図40)

出土した遺物には土師器碗、皿、柱状高台を有する皿、有台碗、内面を黒色処理した有台碗などが殆どを占める。須恵器片(26)が一点出土している。碗(1~6)は口径12.6cm~13.3cm、器高4.3~4.8cm。皿(7~14)は口径8.4cm~9.9cm、器高2.2cm~2.8cm。柱状高台を有する皿(15~18)は比較的多いが、全形を知り得るものは1点で、口径9.0cm、器高3.95cmを測る。内黒碗(19~22.24)も同じく全形を知り得るものは1点で、口径15cm、器高9.4cmを測る。土師器碗・皿類は全て糸切りである。以上、若干の夾雜物を含むものの全体として⁷⁾は桜町遺跡舟岡地区上層遺構出土土器群と類似した様相を示しており、11世紀後半代のものが大半を占めるものと考える。⁸⁾

注

- 1) 金田章裕「条里制」『小矢部市史』上巻、小矢部市史編纂委員会・小矢部市1971
富山県埋蔵文化財センター『富山県埋蔵文化財包蔵地図』1993
- 2) 小矢部市教育委員会『能越自動車道関係道路群試掘調査報告(五社遺跡・石名田遺跡・地崎遺跡)』(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第33冊)1991
- 3) 財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所『埋蔵文化財年報(4)』-平成4年度-1993
- 4) 藤井昭二「五万分の一表層地質図 砥波』富山県1967
「mud」と古代・中世村落との関係については、金田章裕「古代・中世の村落形態とその変遷」「条里と村落の歴史地理学研究」大明堂1985、同「扇状地上の村落」「微地形と中世村落」吉川弘文館1993に詳しい。
- 5) 宇佐美龍夫「資料日本被災地誌総覧」東京大学出版会1975
- 6) 安達正雄「白山大地震により埋没した『雇雲城』と『木舟城』」『金沢大学日本海域研究所報告』第8号 1976
- 7) 宇佐美龍夫注5)ほか
- 8) 小矢部市教育委員会「北反戻遺跡一条里遺構の発掘調査概要II-」(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第30冊)1990
- 9) 石川県加賀市田尻シンペイダン遺跡出土土器群に類似する。(石川県教育委員会『田尻シンペイダン遺跡発掘調査報告書』1979)



図41 調査状況(北から)



図42 調査状況(南から)

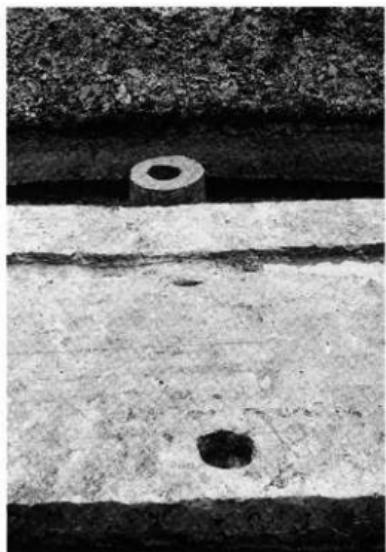


図43 棚SA-8381(西から)



図44 土層(西北から)

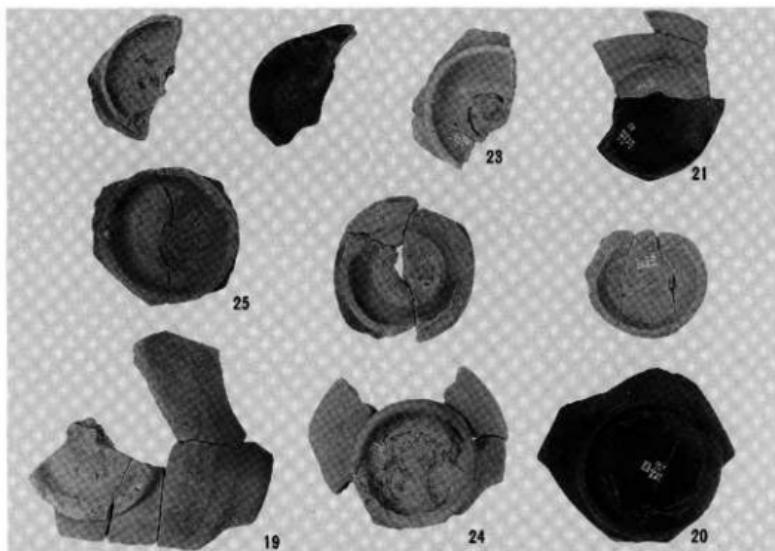


図45 土器(灰・黒色土器)

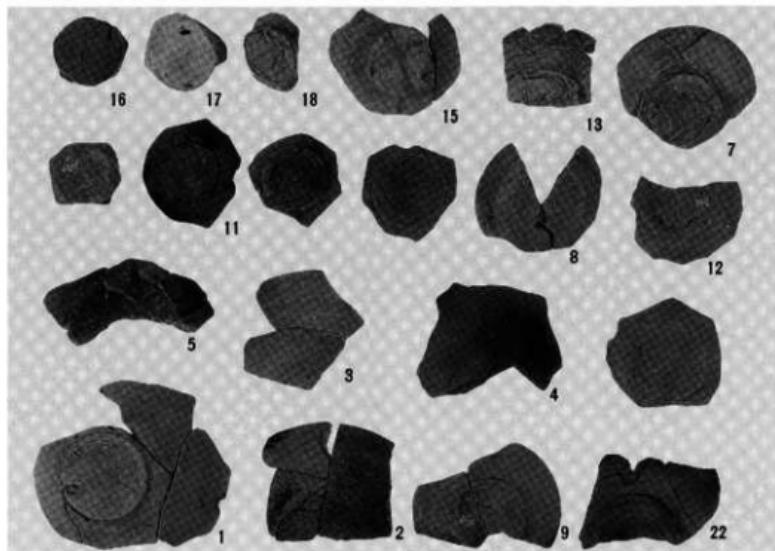


図46 土器(灰・灰など)

IV 谷内窯跡群発掘調査概報

所在地 小矢都市壇生字谷内54-1ほか

調査期間 平成5年7月19日～12月24日

調査対象面積 2,800m²

調査の原因 店舗建設

調査の概要

谷内窯跡群は石動市街地の南西、砺波山丘陵東端付近に所在する。西井龍儀氏により発見され、8世紀前葉の年代が与えられている。¹⁾ 遺構は丘陵尾根東側斜面に1号窯、西側斜面に2号窯が所在するとみられるが、窯跡の正確な位置はいずれも不明であった。ただ、1号窯の灰原の一部とみられる黒色の遺物包含層が、土砂搬出用道路の露頭で観察でき大略の位置は推定が可能であった。今回開発が予定された位置は当初2号窯が所在すると推定される西側斜面のみであった。試掘調査の結果、斜面上位で横瓶(図48)ほか須恵器片が採取されたが窯跡・灰原などを確認することはできなかった。その後、造成の範囲が東側に及ぶことが明らかとなったため、試掘の範囲を広げることになった。調査の結果、窯体の一部などが確認され、その部分については原作者と協議の上工事区域から除外する

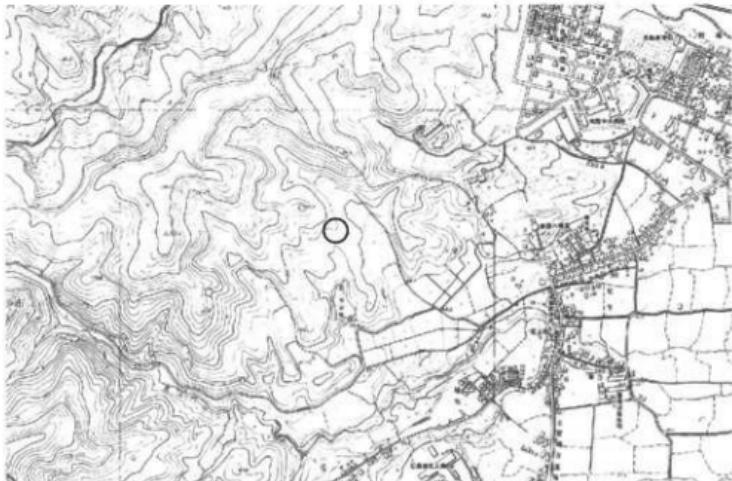


図47 谷内窯跡群発掘調査位置図(1/15,000)

こととした。

遺構

遺構は丘陵東側斜面で確認された。斜面上位でやや大形の穴が数基あり、中から須恵器が出土した。窯体は斜面下方にあり、灰黒色に硬化した底面と奥壁と見られる赤色の焼土を検出した。遺存状況は極めて悪い。灰原は斜面下端部から谷部に及ぶと見られるが、調査区外に及ぶため範囲は不明である。

遺物

出土した遺物は全て須恵器で、杯蓋、有台杯、無台杯、長頸瓶、短頸壺、同蓋、瓶、甕がある(図48)。杯蓋は法量により径12.5cm~15cmのと17cm~19.4cmの二群に分けられる。形態上、笠形のもの(1~3・5・13など)と偏平なもの、偏平なもののうち端部が屈曲(11・12・20)するものと、そうでないもの(14・16・18・19など)に分けることができる。先端部の形状では、断面形が三角形を呈するもの、折り返しが長いもの、先端部が鷺口状に鋭くなるもの、折り返しの内側に段を有するものなど多様である。(図50)。範削りでは上方2分の1から3分の1を削り、その痕跡を残すものが多い。有台杯は全形を知り得るものが1点のみ(35)であるが、口径15.8cm、器高5.2cmである。無台杯は口径11.2cm~12.8cm、器高3.1cm~4.1cmに集中するが、形態上椀形のもの(44・45)、体部の外反度の強いもの(57・58)など数種類確認できる。胎土には海綿骨針片を含む。以上の特徴などからこれら的一群は、松永I窯跡²⁾、平桜岡山窯跡群³⁾に先行し、山王奥堤・蓮沼新堤窯跡⁴⁾より後出のものと考えることができる。

1988年に行なわれたシンポジウム「北陸の古代土器研究の現状と課題」では当該時点で

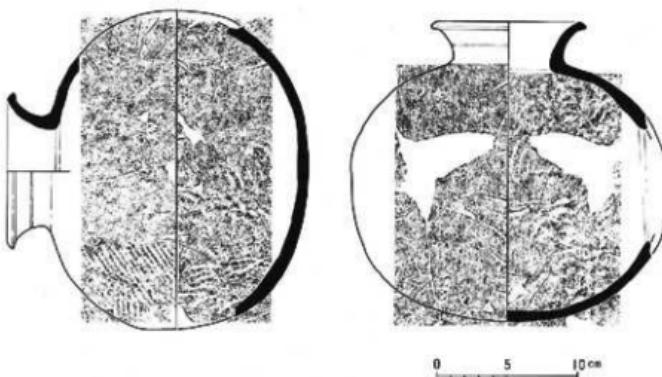


図48 須恵器実測図(1/4)

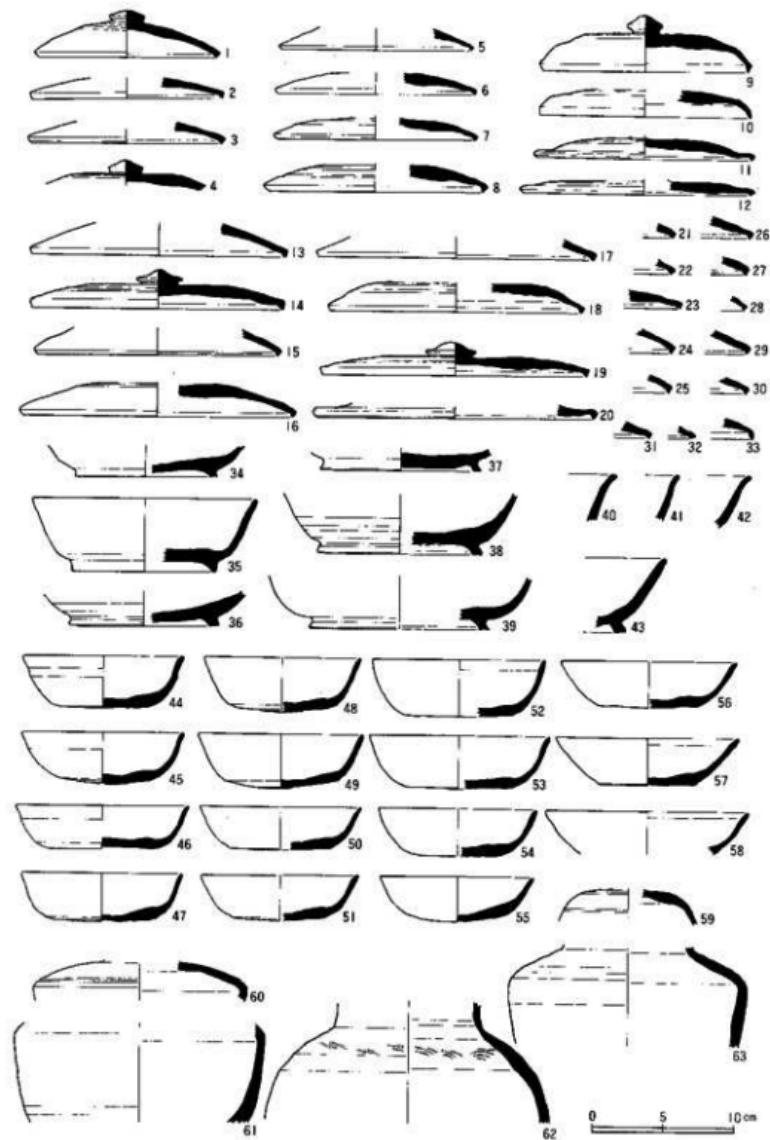


図49 痕跡器実測図(1/4)



図50 須恵器壺口縁端部の形状(1/4)

の須恵器研究の現状が報告され、須恵器生産遺跡の集成が行なわれた。その後、

各地域で新たな資料が蓄積されつつあるが、小矢部市地域においても平桜岡山6号窯跡(7世紀第3四半期)と松尾窯跡が発見されている。このうち、谷内窯跡との距離が近く、時期的にも近いと考えられる松尾窯跡探集の資料を紹介する。(図51)。

松尾窯跡は小矢部市松尾地内、砺波山丘陵から流れる小河川である砺波川右岸、臘川左岸の丘陵先端部にある。1990年に発見された。窯体の正確な位置は明らかではないが、遺物の分布状況から複数基存在する可能性がある。探集された遺物には、杯蓋、有台杯、椀、⁵⁾平瓦・丸瓦などがある。杯蓋は径18cmのものが1点ある(1)。やや偏平で、端部の折り返し

は長い。有台杯(2~5)は口径が13.4cm~16.3cm、器高3.8cm~4.5cmではらつきがあり、複数法量存在するものと思われる。椀(6)は口径11.2cm、器高4.5cmを測る。胎土には海綿骨針片を若干含む。形態上



図51 松尾窯跡出土須恵器・瓦実測図(1/4)

7世紀第4四半期に属する山王奥堤・蓮沼新堤窯の製品に類似するが、全体にシャープさ⁶⁾がない。平瓦(7)は凸面に斜格子の叩き痕を丸瓦(8)は平行叩き痕を残す。操業時期は山王奥堤・蓮沼新堤窯の後、谷内窯に先行する時期のものと思われ、曆年代は西暦700年を前後する時期と考える。

注

- 1)西井龍儀「砺波郡の概要」「松木・埴生窯跡群の概要」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」石川考古学研究会・北陸古代土器研究会1988
- 2)前掲注1)
- 3)小矢部市教育委員会『平桜岡山3号窯跡』(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第5冊)1981
伊藤隆三「平桜岡山窯跡群の概要」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」資料編、石川考古学研究会・北陸古代土器研究会1988
- 4)前掲注1)
西井龍儀・伊藤隆三「資料編・富山」『北陸の古代寺院ーその源流と古瓦ー』北陸古瓦研究会1987桂書房
- 5)瓦は山王奥堤・蓮沼新堤窯でも生産されていたことが知られているが、何れも丸瓦のみである。時期は相違するが今回初めて平瓦の生産窯跡が確認されたことになる。
- 6)松尾窯跡の東方に位置する福田遺跡で1980年に採取された平瓦が、当窯の製品と類似している(小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団・富山大学考古学研究室「小矢部市埋蔵文化財分布調査報告II」(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第6冊)1981)。
- 7)山王奥堤・蓮沼新堤窯の丸瓦は凸面に叩き痕を残さず、全て削り仕上げである。



図52 調査区全景(北から)



図53 窯体(床面)



図54 造構(SP-1・2・4)

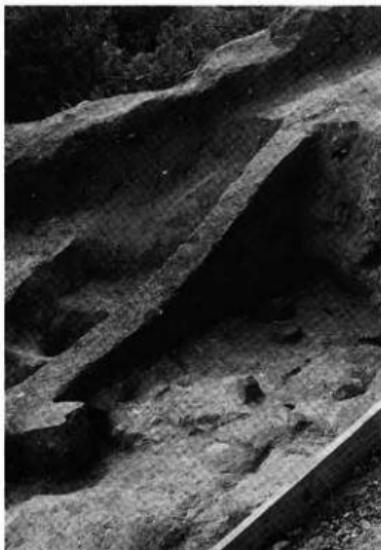


図55 條器出土状況(SP-4)

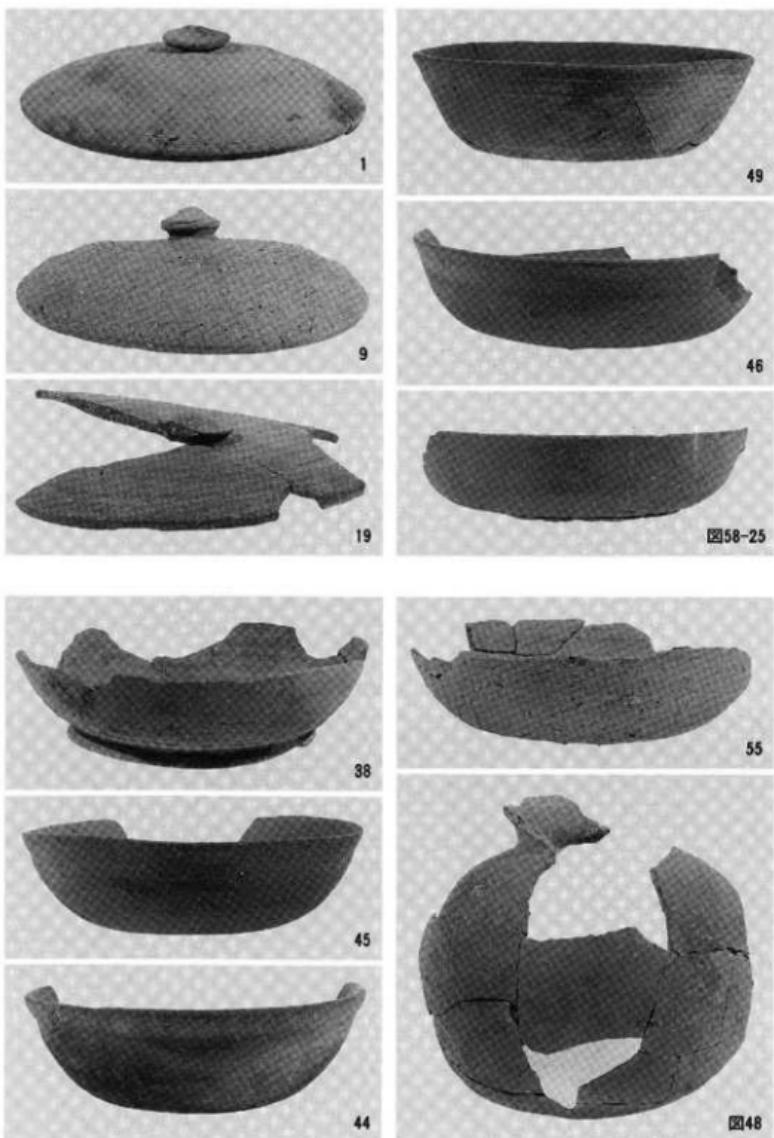


図56 猥惠器(蓋・有台杯・無台杯・榠・模制)

V 塩生南遺跡発掘調査概報

所在地 小矢都市塩生280-2
調査期間 平成5年11月5日～11月29日

調査対象面積 998m²

調査の原因 住宅建設

調査の概要

塩生南遺跡は石川県との境界をなす砺波山丘陵の西麓、渋江川左岸の低位段丘上にある。北に北反畠遺跡、南に日の宮・道林寺遺跡や松永遺跡など大規模な遺跡が分布する。平成4年から5年にかけて、今回の調査地点の西方約200mで実施した発掘調査では12世紀後半から13世紀初め頃に属すると考えられる遺構群が検出され、その下層から奈良時代前半代に属すると思われる遺構群が検出されている。今回の調査ではあらたに弥生時代中期の遺物包含層を確認した。

遺構

調査地点は1970年代に圃場整備事業が実施されており、耕作土直下に当時の擾乱土層が

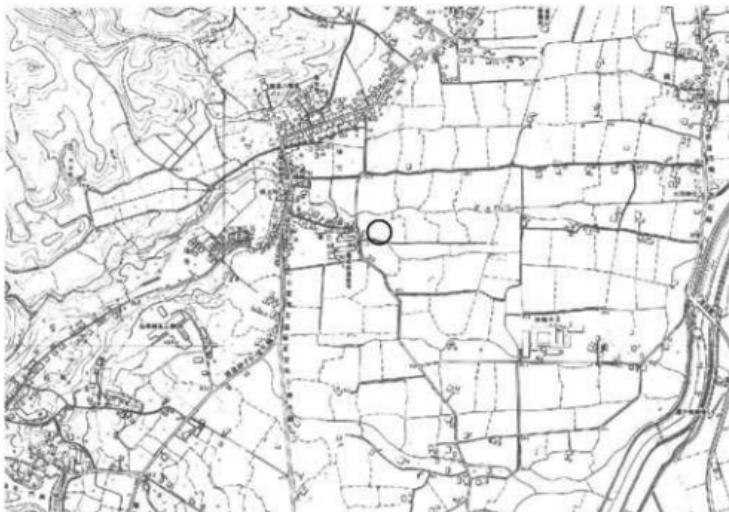


図57 発掘調査位置図(1/15,000)

ある。この下に弥生時代中期の遺物を包含する黒色粘質土層が広がっている。この包含層を切って溝2条が検出された。この内の溝SD-01の埋土は黄褐色の粗い砂の単層で、一気に埋まった様子がうかがえる。中から奈良時代前半代の須恵器杯が出土している。同様な溝の埋没状況は平成4・5年の調査でも確認されており、この時期に大量の土砂の流出があったことを示している。SD-02からは時期を特定できる遺物は出土していないが、埋土はSD-01と異なっており時期は相違するものと思われる。弥生時代の遺構は確認されていない。

遺物(図58)

溝SD-01から須恵器有台杯が2点出土した。24は特徴的な高い高台を有するが、産地を特定できない。25は大形の浅い有台杯であるが高台を欠いている。近隣では松永窯跡出土品などに類例がある。

出土した遺物の大半は弥生土器である。壺、甕、高杯のほか図示できなかったが鉢がある。壺には口縁が直線的に外上方に立ち上がるるもの(A-1・7)など、口縁が大きく外反するものの(B-3・4・5)、受口状の口縁となるもの(C-8・18)などがある。Aは篆文であるがB・Cには口縁部に文様を施す。Bは全て口縁部に刻みを施すが、口縁内面に綾杉状の刺突を施すものと、施さないものがある。5は綾杉状刺突を施した後内側に竹管文を1列施している。Cは口縁部にのみ刺突を施すが、綾杉状にするものと、そうでないものがある。図示できなかったが、壺体部片で複雑な波状文を施すもの、平行線文などを数段にわたり施すもの(平行線文→空→平行線文→空→平行線文→綾杉状刺突文→平行線文)がある。甕は口縁端部に刻みを施すものは認められない。また器壁の荒れが著しく器面調整などは殆ど観察できない。口縁部の形態には、外反するものと、くの字状になるものがある。高杯は1点図示したが、これとは別に杯部と脚部との間に沈線を1条廻らせてその上下にX字状の刺突を施すものがある。鉢は口縁部に突帯を貼りつけ、突带上に綾杉状の刺突を施すものである。以上、文様は櫛描波状文などを施すものが若干存在するものの、主体は綾杉状刺突文であり文様のバラエティは少ない。これら土器群は若干の夾雜物を含む可能性はあるものの、畿内第Ⅲ様式の新しい段階にあたるものが大半を占めるものと考えられる。¹⁾北陸地方では金沢市礪部遺跡(1次・2次)、高岡市石塚遺跡(3期)と対比できると考えられるが、礪部遺跡などでは円線文系の土器群が定量出土しているなどの相違がある。

このほか、縄文時代の石鏃2点と小形の磨製石斧1点が出土している(図65)が、土器が出土しておらず所属時期は不明である。

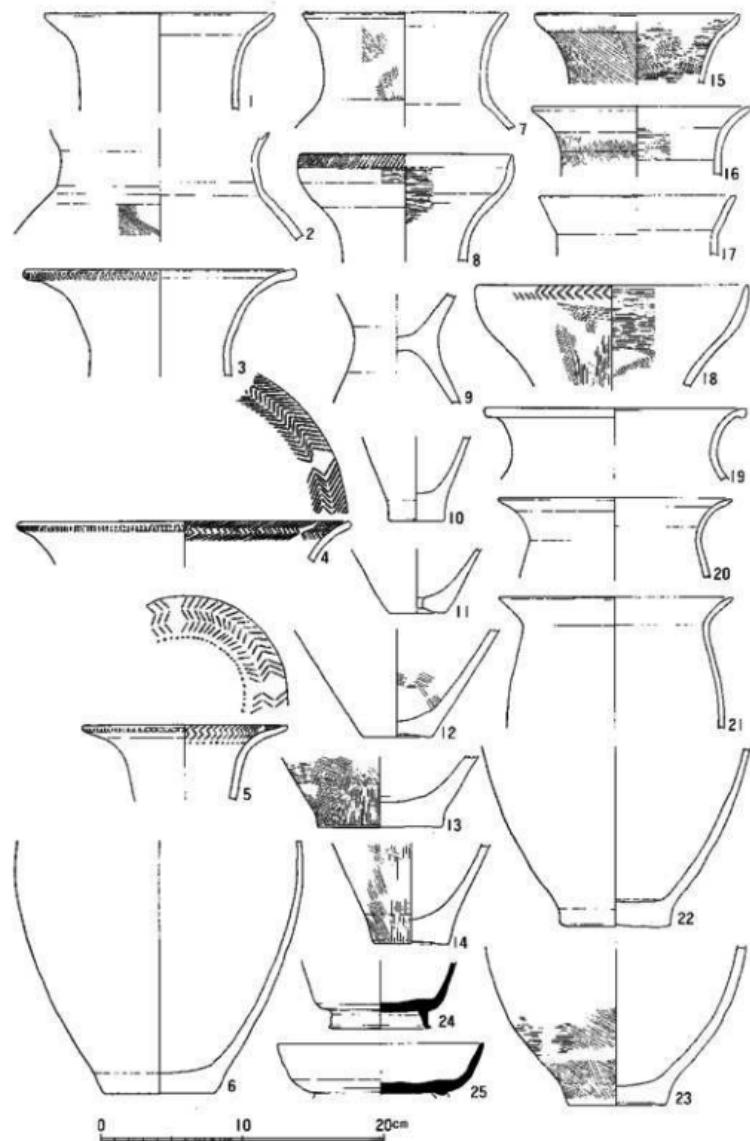


図58 弥生土器・須恵器実測図(1/4)

注

- 1)吉岡康鶴「北陸弥生土器の編年と画期」『日本海域の土器・陶磁 [古代編]』六典出版1991
- 2)金沢市教育委員会「金沢市礪部運動公園遺跡」(金沢市文化財紀要70)1988
- 3)上野一章「弥生時代附占式土師器」『富山県史』考古編1972



図58 調査状況(南から)



図59 調査状況(南から)



図61 溝SD-01(東から)



図62 溝SD-02(西から)



圖83 弥生土器出土狀況

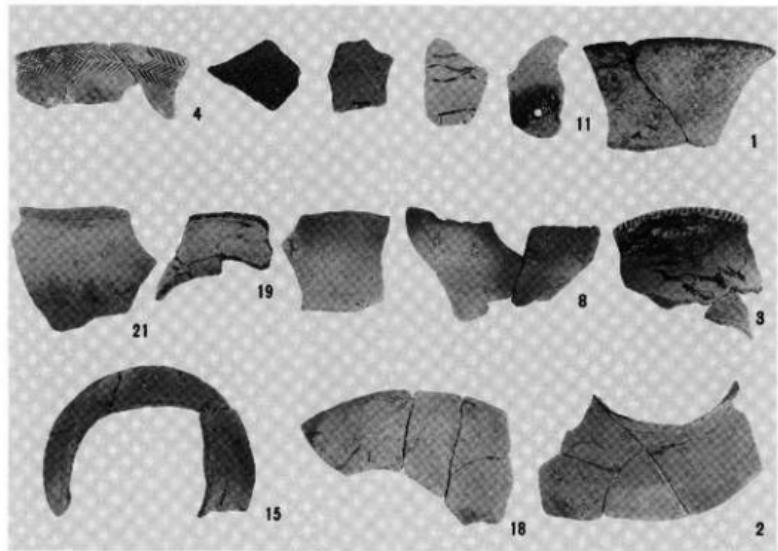


圖84 弥生土器

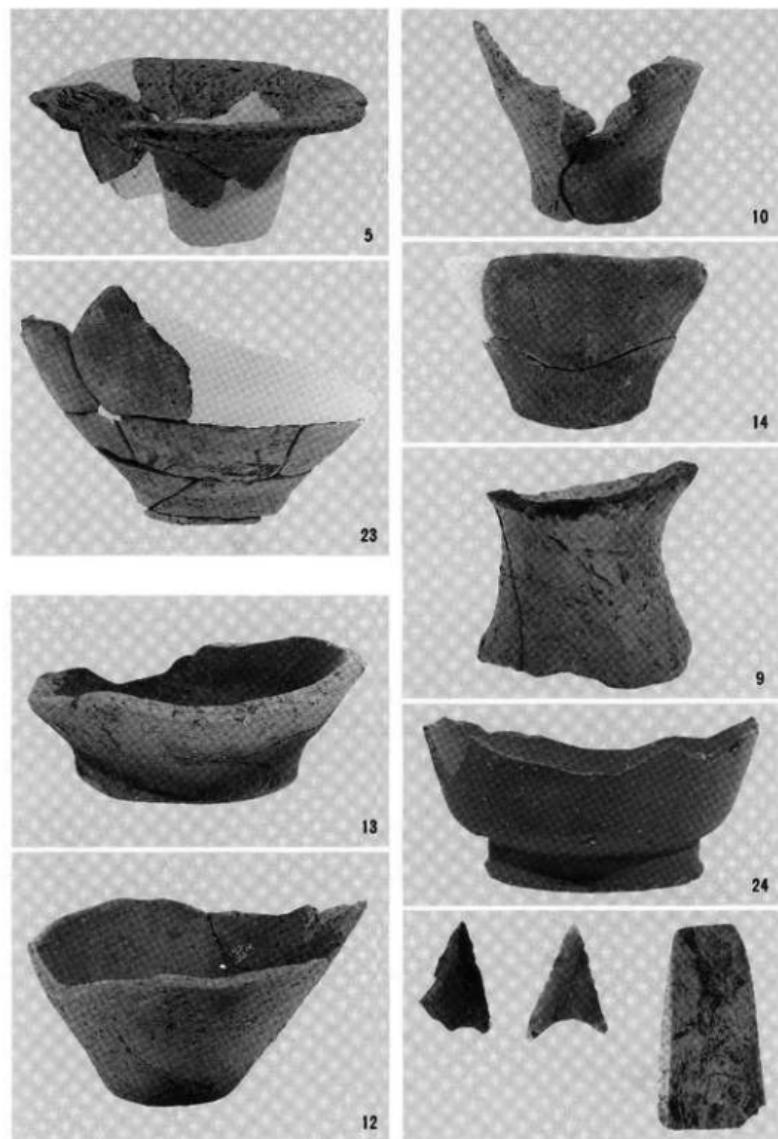


圖65 弥生土器・須恵器・石鏽・磨製石斧

報告書抄録

ふりがな	へいせい ねんど おやべし まいぞうぶんかざいはくつちょうさかいほう						
書名	平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報						
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第39冊						
編著者名	伊藤 隆三						
編集機関	小矢部市教育委員会						
所在地	〒932 富山県小矢部市本町1番1号 TEL0766-67-1760						
発行年月日	西暦1994年3月31日						

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'\"/>	東経 °'\"/>	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さくらまちいせき 桜町遺跡 (産田地区)	とやまけんおやべし 富山県小矢部市 さくらまち 桜町	16209	021	36°41'08"	136°52'42"	19930419 19930422	160m ²	ガソリン スタンド 建設
ごしゃいせき 五社遺跡	とやまけんおやべし 富山県小矢部市 ごしゃ 五社	16209	170	36°40'50"	136°55'08"	19931202 19931224	150m ²	住宅建設
やらかまあとぐん 谷内窯跡群	とやまけんおやべし 富山県小矢部市 はにゅう 埴生	16209	045	36°39'45"	136°51'00"	19930719 19931224	100m ²	店舗建設
はにゅうみなんせき 埴生南遺跡	とやまけんおやべし 富山県小矢部市 はにゅう 埴生	16209	055	36°39'35"	136°51'30"	19931105 19931129	90m ² 324m ²	住宅建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺構	特記事項			
桜町遺跡	集落	古 中 代 世	道路遺構(7世紀後半) 掘立柱建物(古代) 条里坪界溝(中世)	須恵器 土師器 珠洲焼・青磁	道路遺構は古代北陸道と推定される。			
五社遺跡	集落	古 代	権(古代)	土師器	遺物包含層から11世紀代の資料			
谷内窯跡群	窯	古 (奈良初)	窯床・土塙	須恵器				
埴生南遺跡	集落	弥 古 生 代	溝2(古代)	弥生土器 須恵器				

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第39号

平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 1994年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

(〒932 富山県小矢部市本町1番1号)

T E L 0766-67-1760

印 刷 株式会社 アヤト

